



2025~2027年度

中期経営計画

United for Growth 2027

-Driving sustainable innovation through global collaboration-

1. 前中期経営計画の振り返り

2. 中期経営計画

United for Growth 2027

-Driving sustainable innovation through global collaboration-

1

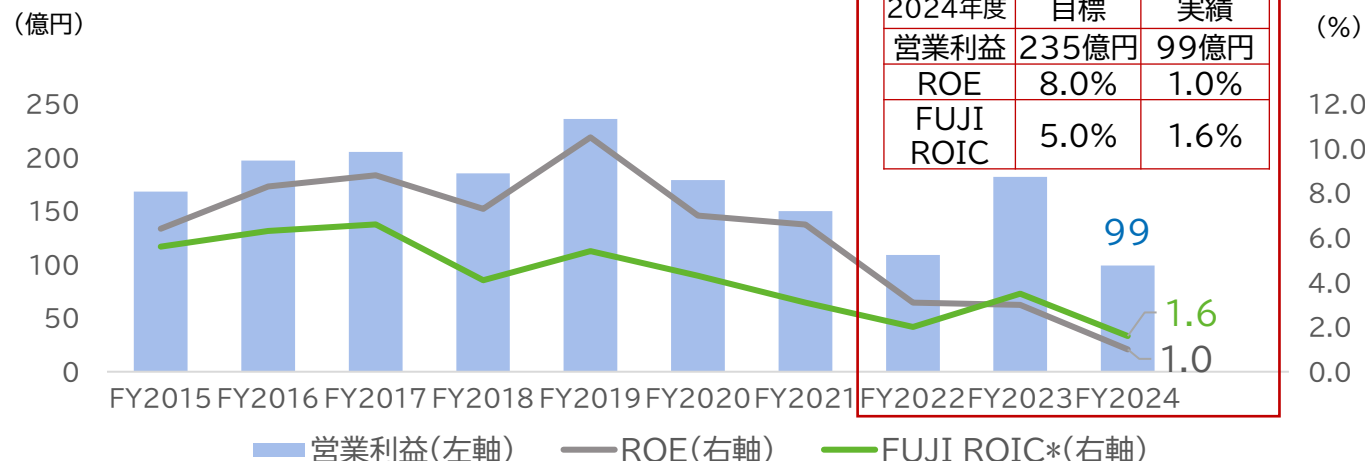
前中期経営計画の 振り返り

前中期経営計画 経営目標

不二製油株式会社

前中期経営計画では、非財務目標を前倒しで達成した一方、カカオ相場高騰などの影響により財務目標は未達となった。

財務項目



* 上記は、日本基準に基づく数値。2020年度以前はROICにて掲載。FUJI ROIC=税引後営業利益÷(運転資本+固定資産)
2019年度は海外グループ会社19社の決算期の変更により、当該連結子会社は2019年1月1日から2020年3月31日までの15か月決算。

- ✓ 2024年度にはチョコレート用油脂(CBE)およびコンパウンドチョコレートの販売が大きく伸長
- ✓ ブラマーでは、カカオ価格高騰に伴う特殊要因により関連費用が大幅に増加し、収益が著しく悪化
- ✓ 原材料価格の上昇により運転資本が増加した結果、ROICも低下

非財務項目

	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2024年度目標
CO ₂ 排出量の削減* ¹ (スコープ1+2)	26%削減	30%削減	31%削減	23%削減
サステナブル調達 (パーム油)	TTP* ² 比率 93%	95%	95%	85%

*¹ 基準年:2016年度、対象:連結子会社

*² TTP:Traceability to Plantation(農園までのトレーサビリティ)

- ✓ CO₂排出量の削減、サステナブル調達ともに、2022年度に前倒しで目標達成

前中期経営計画 施策

不二製油株式会社

カカオ価格高騰の事業環境下においても、事業基盤強化の成果が現れ、高収益を実現。
一方で、施策実行スピード、資本効率性、人材の配置において、課題を再認識。

達成実績

事業基盤の強化

- ・チョコレート用油脂(CBE)、コンパウンドチョコレートの販売数量増加
- ・植物性油脂事業が過去最高益を達成
- ・乳化・発酵素材事業 東南アジアの収益性改善

グローバル経営 管理の強化

- ・FUJI ROIC導入、グループ各社への浸透
- ・事業持株会社制への移行

サステナビリティ の深化

- ・省エネルギー活動、再生可能エネルギーの導入により、CO₂排出量削減
- ・パーム油のトレーサビリティシステム導入
→非財務目標の達成

残された経営課題

- ・カカオ要因によるブラマー改善の遅れ
- ・一部投資案件の早期収益化が進まず

- ・原材料価格の高騰により運転資本が増加、ROIC目標の大幅未達
- ・強みである技術のグローバル展開・バリューチェーンの構築が途上

- ・人材リソース不足・分散により課題への対応に遅れ

強化した事業基盤の更なる成長と、新たな挑戦領域の確立。
また、全社一体となったガバナンスの強化促進を新中期経営計画で目指していく。



2

中期経営計画

United for Growth 2027

-Driving sustainable innovation through global collaboration-

不二製油グループの価値創出

社会課題や顧客ニーズの解決を通じて、収益を創造し、企業価値の持続的な向上を図る。

不二製油株式会社

サステナブルな食の未来

不二製油も含めた
バリューチェーン全体の持続的な成長

不二製油グループ
のビジネス

植物性素材で、人と地球の課題解決

地球・社会の主な課題

世界人口増加と
食資源の偏在化

健康寿命の延伸

ステークホルダーの主な課題



農産地

生態系変化への対応
労働者の人権課題
コミュニティとの共生



顧客

原材料の安定調達
フードロス、食品安全
人手不足・人件費増



消費者

「おいしい」多様な
選択肢、健康増進

ネイチャー
ポジティブ

サーキュラー
エコノミー

カーボン
ニュートラル

今中期経営計画の位置づけ

Phase2である今中期経営計画で、ビジョンの実現に向けた取り組みを軌道に乗せる。
事業環境の変化を踏まえ、基本方針の3本柱を更新。

Phase1:2022～2024

基盤の強化

- ・ブラマー等大型投資の期待収益の実現
- ・事業管理基盤の変革
- ・挑戦領域への展開

環境変化に合わせ
方針を見直し

Phase2:2025～2027

軌道に乗せる

- ・ガバナンスの深化
- ・成長領域の更なる強化
- ・新たな挑戦領域の確立

Phase3:2028～2030

確立・確固

- ・高収益型ポートフォリオの完成
- ・挑戦領域が事業の柱
- ・サステナブルが差別化要因に

VISION

植物性素材で
おいしさと健康を追求し、
サステナブルな食の未来を
共創します。

KPI

2024年度実績

ROE* 1.8%

FUJI ROIC* 2.1%

2027年度改定目標

ROE 10.0%以上

FUJI ROIC* 6.0%以上

* 2025年度からのIFRS任意適用に伴い、FUJI ROICの算出式を変更。2024年度実績は、IFRSベースの事業利益に組み替えて算出。
FUJI ROIC = 税引後事業利益 ÷ (運転資本 + 固定資産 + 持分法投資)

United for Growth 2027

Driving sustainable innovation through global collaboration

不二製油グループは調達先・取引先・顧客・地域社会といった多様なステークホルダーと協働し、「サステナブルな食の未来」の共創に挑み続けます。

私たちは、世界各地で事業を展開するグループ各社が一体となり、植物性素材を通じて人と地球が抱える課題解決に取り組み、バリューチェーン全体での革新的な価値創出と持続可能な成長を目指します。

定量目標

2027年度に財務項目において事業利益450億円の達成を目指す。

財務項目

	2024年度実績* ¹	2027年度目標
事業利益	133億円	450億円
ROE	1.8%	10.0%以上
FUJI ROIC* ²	2.1%	6.0%以上

*¹ 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

*² FUJI ROIC = 税引後事業利益 ÷ (運転資本 + 固定資産 + 持分法投資)

- ✓ チョコレート用油脂(CBE)、コンパウンドチョコレートによる事業利益伸長
- ✓ ブラマーでの収益性向上
- ✓ 投資案件、バランスシートのコントロールにより、資本効率を高める

将来財務項目

	2024年度実績	2027年度目標
GHG排出量の削減* ¹ (スコープ1+2)	10%削減	20%削減
サステナブル調達 (パーム油)	TTP* ² 比率 95%	95%以上維持

*¹ 基準年:2020年度 対象:連結子会社

*² TTP:Traceability to Plantation(農園までのトレーサビリティ)

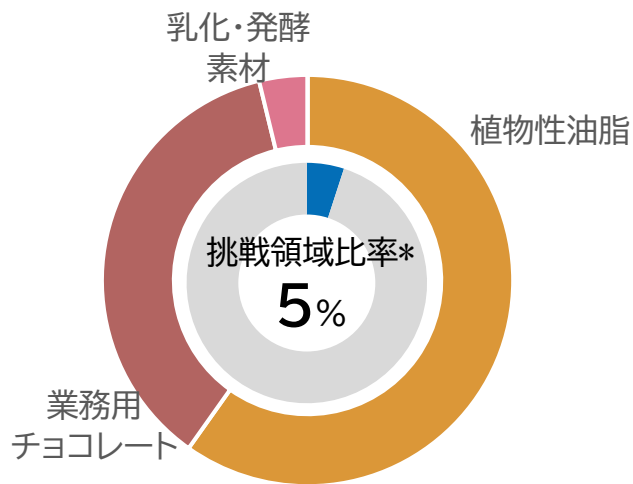
- ✓ 環境ビジョン2030/2050、サステナブル調達コミットメントに基づき、計画達成を目指す

目指す事業ポートフォリオ、挑戦領域

各事業の成長領域を拡大させ収益性の拡大につなげるとともに、新たな挑戦領域の事業確立を進める。

不二製油株式会社

2024年度 事業利益*
構成割合

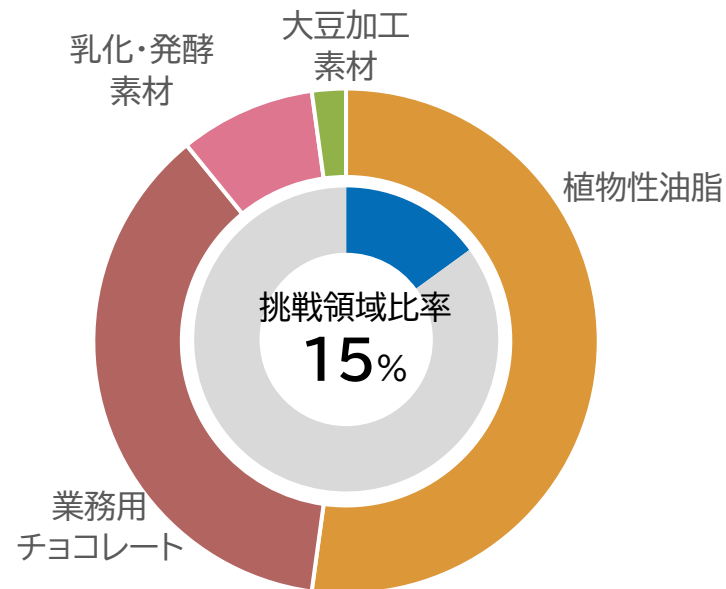


* カカオ特殊要因を除いた事業利益に占める割合

2024年度

- ✓ 植物性油脂事業の伸長
- ✓ カカオ要因により、業務用チョコレート事業のブラマーでの業績悪化
- ✓ 設備投資した拠点の収益化の遅れもあり、大豆加工素材は収益が悪化

2027年度 事業利益
構成割合(イメージ)



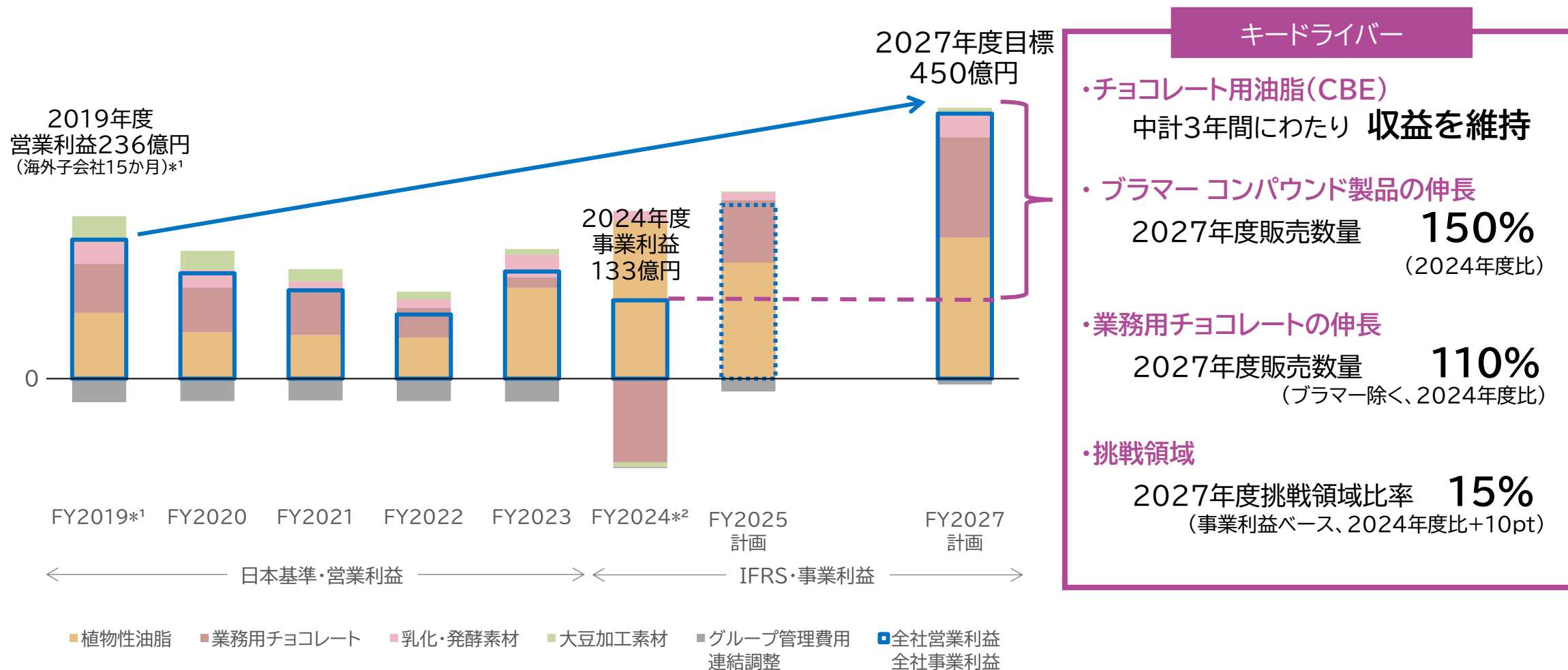
今中期経営計画期間

- ✓ ブラマーの改善により、業務用チョコレートが伸長
- ✓ コア製品群の競争優位性のさらなる強化
- ✓ 次の事業の柱となる挑戦領域製品群の育成と収益化

事業利益目標

不二製油株式会社

2027年度に、過去最高益である2019年度の営業利益を大きく上回る、事業利益450億円の達成を図る。



2019～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。

*¹ 2019年度は海外グループ会社19社の決算期の変更により、当該連結子会社は2019年1月1日から2020年3月31日までの15か月決算。

*² 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

中期経営計画の基本方針

3つの基本方針を通して事業価値向上を図る。

不二製油株式会社

ガバナンスの深化

事業軸と機能軸の強化による、管理体制の強化

主な取り組み

- ✓ 事業持株会社制への移行、ガバナンスを強化
- ✓ ブラマーの改善

成長領域の更なる強化

高い市場シェアを持つ主力製品群の競争力強化

- ✓ チョコレート用油脂(CBE)の競争力強化
- ✓ コンパウンドチョコレートの拡販

新たな挑戦領域の確立

事業・エリアに応じた、新規事業の確立と推進

- ✓ 各事業での挑戦領域製品群の創出と収益性の確立

植物性油脂事業

不二製油株式会社

高品質かつサステナブルな油脂の供給体制を強化し、チョコレート用油脂(CBE)の世界的な需要に応える。

環境認識

- ・カカオ価格の高止まりにより、CBEの需要拡大
- ・サステナブル認証油需要の継続

基本戦略

- ・高まるCBE需要に対応
- ・サプライチェーンの強化
- ・ポートフォリオの高付加価値化への変革

成長領域

高品質でサステナブルなサプライチェーンの構築

CBEの需要に応じた生産体制の強化及び、CBEの原料であるパーム油、ひまわり油、シアのサプライチェーンを強化。
CBE以外の油脂製品においても、「高品質」「サステナブル」を軸に、差別化を図る。

挑戦領域

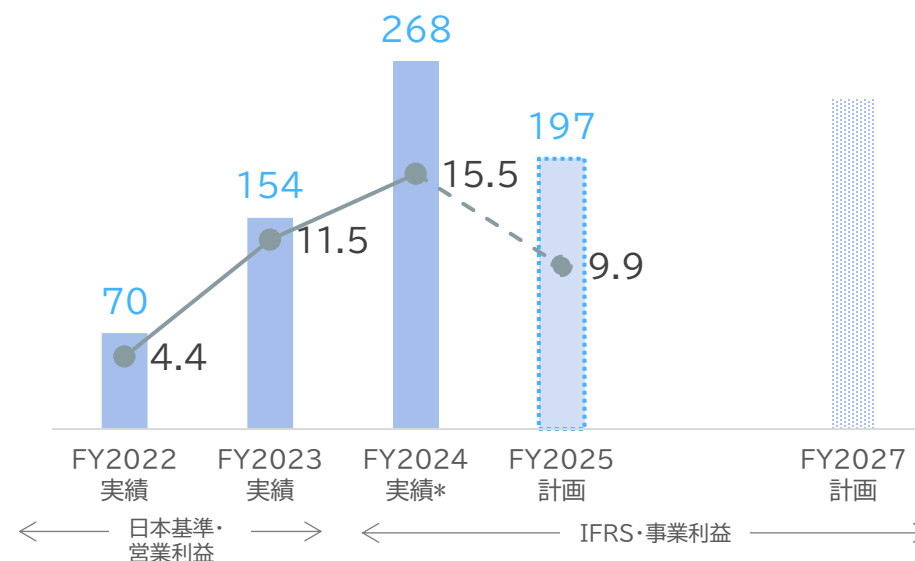
高付加価値製品の展開

日本では、動物性代替脂新ブランド「Melavio」シリーズを展開。
近年、不二製油グループに加わった会社が保有するひまわり・ライスブランオイル、グレープシードオイルにおいて、グループの技術力と販売網により利益の最大化を目指す。



グレープシードオイル

業績計画
■ 利益(億円) ● FUJI ROIC(%)

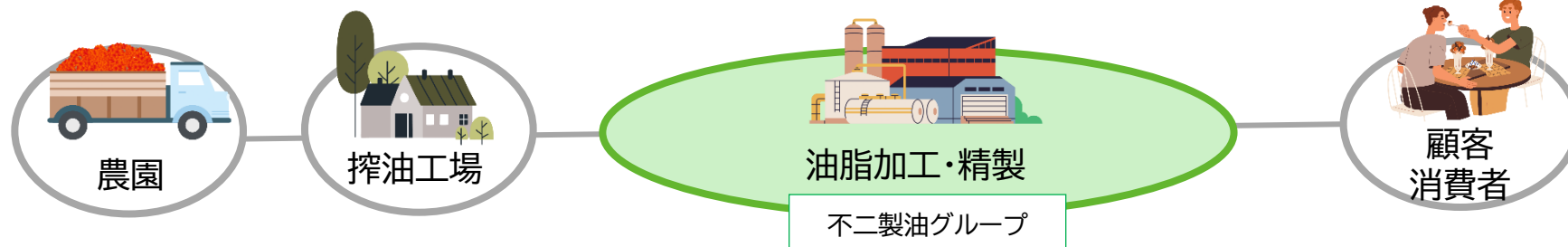


2022～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。
* 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

植物性油脂事業 サプライチェーン強化によるCBEの競争優位性の確立

不二製油株式会社

原料サプライヤーとのパートナーシップ強化と、生産効率の向上により、CBEの競争優位性を確立。



チョコレート用油脂(CBE)
中計3年間にわたり
収益を維持

不二製油グループや提携先との
サプライチェーン強化

顧客ニーズへの対応による
収益性の拡大

パーム油

農園とのパートナーシップを強化。高品質でサステナブルな原料安定確保のため、ユニフジ*1、PAL*2に加え、JPG フジ*3が2026年稼働予定。



ひまわり油

プロヴァンス ユイル*4の加入により、CBEの主原料である高品質なひまわり油の調達を強化。



生産効率の向上

設備の改善投資や
中間原料の不二製油
グループ内供給体制
の強化

顧客ニーズへの対応

サステナブルで高品質
な製品の拡大

社会・顧客・消費者ニーズ

- ・透明性の高いサプライチェーンの構築
- ・環境負荷の低減
- ・チョコレート用油脂(CBE)の安定供給
- ・パーム油のプロセスコンタミナントの低減

*1 ユニフジ: United Plantations社との合併会社で一次精製を行う油脂拠点(マレーシア)。2018年稼働。*2 PAL: パルマジュエディブルオイル。一次精製を行う油脂拠点(マレーシア)。
*3 JPG フジ: Johor Plantations社との合併会社で一次精製を行う油脂拠点(マレーシア)。*4 ひまわり油の精製を行う油脂拠点(フランス)。

業務用チョコレート事業

不二製油株式会社

設備投資を通じてグローバルでの供給体制を強化し、コンパウンドチョコレートの収益力向上を図る。

環境認識

- ・カカオ価格の高止まり
- ・チョコレート価格の上昇に伴うチョコレート需要の減退



基本戦略

- ・ブラマー構造改革の遂行
- ・設備投資の実行と、コンパウンドチョコレートの拡販

ガバナンス ブラマー構造改革の遂行

ブラマーの構造改革の遂行に加え、原料管理体制の強化により、基礎収益力の復元を図る。

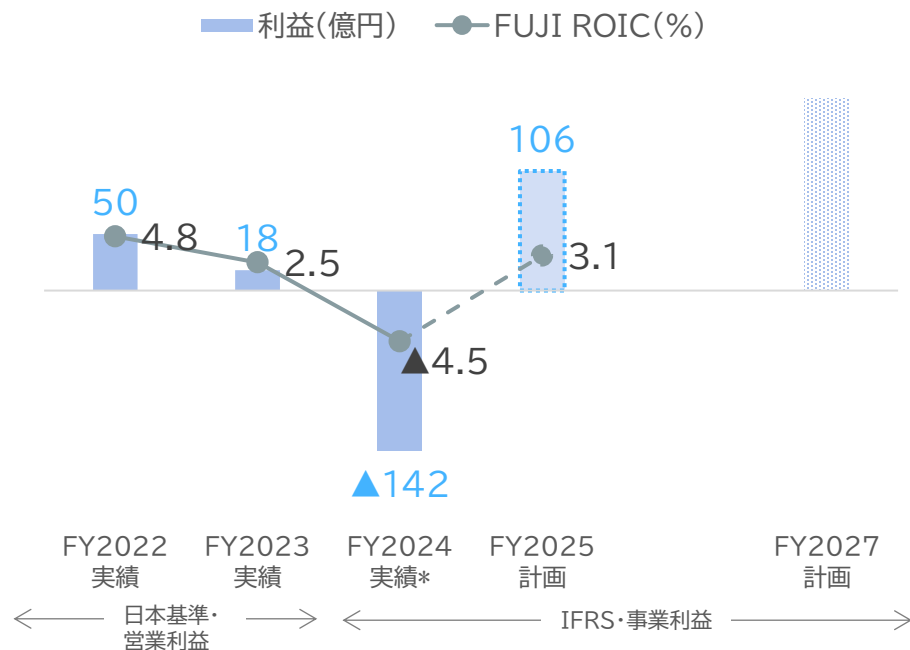
成長領域 設備投資の実行による数量増加

コンパウンドチョコレートの需要拡大への対応と新商品展開の促進のため、ブラジル、欧州、豪州にて設備投資・拡販を実行。

挑戦領域 カカオ不使用チョコレートなど 課題解決型製品の創出と、新市場への拡販

カカオ原料の安定供給不安、価格高騰に対応した、カカオ豆由来の原料を全く使用しない新製品を、日本、ブラジル、欧州にて発売。

業績計画



2022～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。
* 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。



業務用チョコレート ブラマー

不二製油株式会社

ガバナンス体制の強化によりリスクを低減し、基礎収益力の改善と、成長戦略の遂行を目指す。

経緯・状況

- ・2019年買収以降、工場の生産性改善の遅れ等により業績が低迷。2024年3月に構造改革案を発表。
- ・2024年度、構造改革は想定どおり進捗するも、カカオ価格の高騰の影響により、大きな損失が発生。

環境認識

- ・カカオ価格、チョコレート価格は高止まりを想定。
- ・米国チョコレート菓子市場の消費低迷による一時的な需要減退。

ガバナンス

基礎収益力の改善

2024年度に発生したカカオ特殊要因は、2025年度下期に解消を見込む。カカオ在庫を適正化し、リスク低減を図ることに加え、日本からの人材を追加派遣し、グループの最優先課題として、事業管理・生産改善などに取り組む。

挑戦領域

製品ポートフォリオの変革

カカオ加工事業の適正化を進め、チョコレート事業、なかでもコンパウンド製品を主とする製品ポートフォリオへの変革を図る。2026年度稼働予定のキャンベルフォード工場の新ラインでは、付加価値型コンパウンド製品を増産予定。



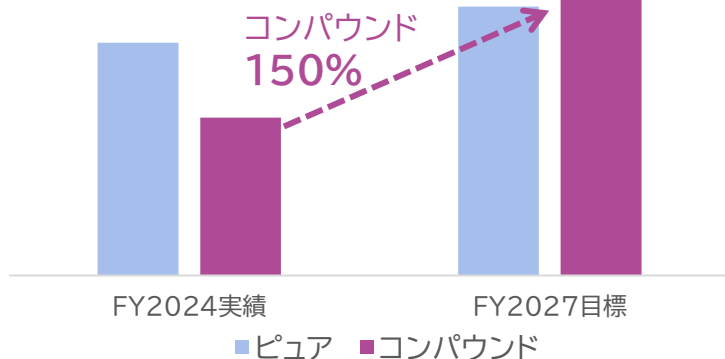
建設中のキャンベルフォード工場の新ライン(カナダ)

2027年度目標

コンパウンド製品

2027年度販売数量 **150%**
(2024年度比)

販売数量(イメージ)



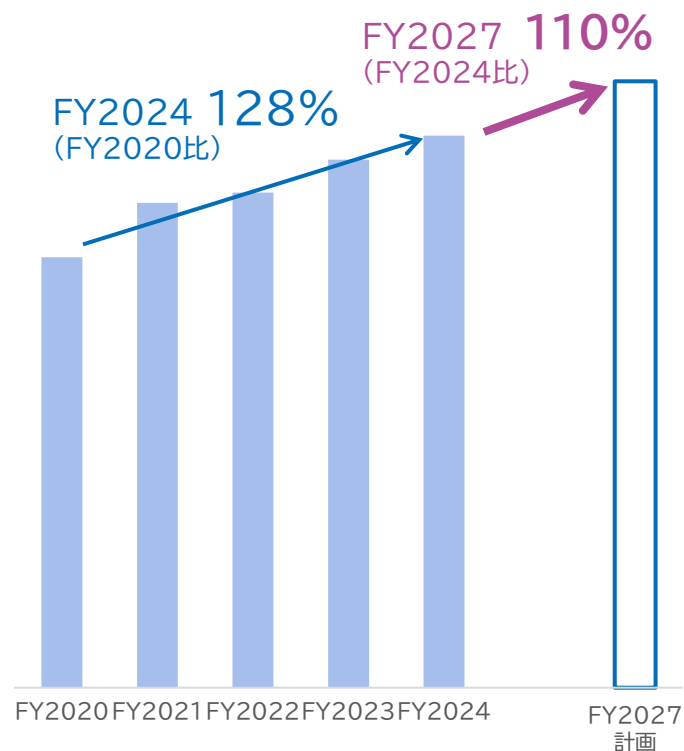


業務用チョコレート事業 コンパウンドチョコレートの拡販

不二製油株式会社

各拠点での設備投資を通じて供給能力を強化し、コンパウンドチョコレートの拡販を図る。

業務用チョコレート事業
販売数量(ブラマー除く)



設備投資計画

日本



不二製油(株)*イメージ図
更新として新工場を建設、2026年度稼働予定。
人手不足に対応した製品群の強化を図る。

欧州



フジオイルヨーロッパ
底堅いコンパウンド、フィリング、
ノンカカオ製品の需要に対応するため、
2026年度下期に新ライン稼働予定。

2027年度目標

2027年度販売数量 **110%**
(ブラマー除く、2024年度比)

ブラジル



ハラルド
コンパウンド拡大のため、第2工場に
新ラインを増設、2025年度より稼働開始。

豪州



インダストリアル フード サービスズ
2026年度に新工場の稼働を予定。
新市場への取り組みを強化。



乳化・発酵素材事業

不二製油株式会社

日本での競争力強化とアジアでの収益性の回復を通じて、事業成長基盤を再構築し、持続的な収益拡大を目指す。

環境認識

- ・日本での消費の二極化、インバウンド需要の高まり
- ・中国の競争激化

基本戦略

- ・付加価値素材の創出による差別化戦略の推進
- ・技術のグローバル展開による市場攻略

成長領域

日本：品種統合による効率化

品種統合を実施し、生産の効率化・収益力拡大を目指す。

挑戦領域

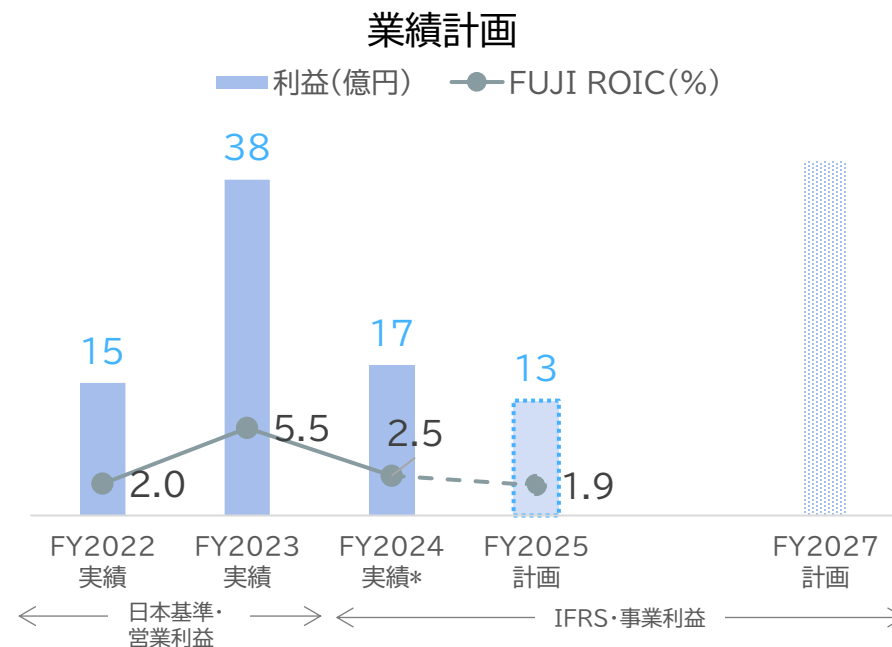
日本：ポートフォリオの拡大

乳化・発酵素材事業本部内の技術の融合で、より付加価値を高めた製品を開発・製造し、新規市場へ参入する。

挑戦領域

中国：クリーム製品の販売強化

不二独自の技術を活用した製品の上市や、販売店の拡大、成長市場である外食・ドリンク市場への新規拡販により、クリーム製品の販売数量の増加を狙う。



2022～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。
* 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。



大豆加工素材事業

不二製油株式会社

食の将来を見据えた事業構築を進め、収益力回復を実行し、サステナブルな成長軌道回帰を図る。

環境認識

- ・既存市場(飲料、加工食品)における低迷
- ・植物性タンパク源の重要性の高まり

基本戦略

課題解決型で「おいしさ」と「栄養・物性機能」を強化した新製品の投入

成長領域

事業体質の改善

2027年度の国内大豆たん白食品の収益化に向けて、事業再構築を推進。
生産能力を強化した大豆たん白素材においては、機能性を高めた製品を投入し、販売数量増加を狙う。

挑戦領域

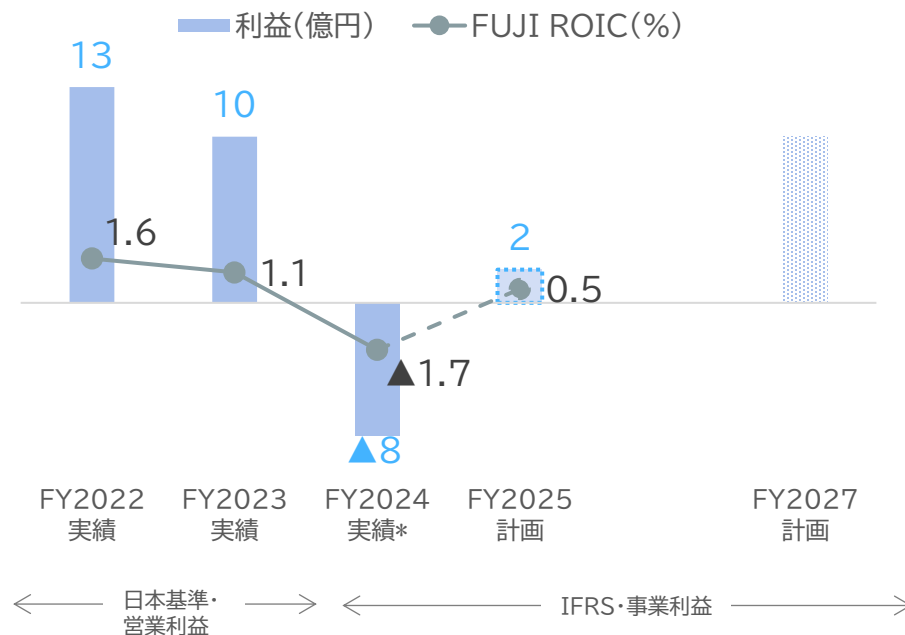
課題解決型製品の展開を強化

大豆たん白製品の製造過程で生じる「おから」を丸ごと原料とし、環境負荷の低減とアップサイクルを両立する新機能性食品素材「ソヤセル」を上市。
製菓・製パン等新規市場での拡販を進める。



ソヤセル

業績計画



2022～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。
* 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

事業、エリアに応じた挑戦領域の拡大

不二製油株式会社

2027年度から収益化を進め、次期中期経営計画の中核となる事業領域の育成を図る。

- ✓ 事業・エリアに応じた、新規事業の確立と推進
- ✓ 新しい製品・技術、新しい市場、新しい売り方による、新ビジネスの育成
- ✓ 挑戦する不二製油の風土醸成

2027年度目標

全社事業利益での
挑戦領域比率

2024年度
5%

2027年度
15%

* カカオ特殊要因を除いた事業利益に占める割合

植物性油脂



日本：動物脂の様な甘みとコクを持つ加工食品業界向け新ブランド「Melavio」シリーズ



欧州：グレープシードオイル

業務用チョコレート



日本・ブラジル・欧州：カカオ豆由来の原料不使用ミルクチョコレートタイプ



米国：ブラマー CBEコンパウンド「ELEVATE」

乳化・発酵素材



日本：独自の乳酸菌発酵技術を活用した「本熟フロマージュ」シリーズ



中国：品質と機能性を両立した製菓用クリーム

大豆加工素材



日本：環境負荷の低減とアップサイクルを両立する新機能性食品素材「ソヤセル」



日本：動物性食品特有の満足感や風味を表現した植物性ダシ「MIRA-Dashi®」

事業持株会社制への移行によるガバナンスの深化

不二製油株式会社

事業軸によるマネジメント体制を強化し、権限委譲を通じて、経営判断・事業戦略の迅速化を図る。

従来エリア制での課題

各エリア会社、エリア長が判断対応。各エリアでのリソース不足により、重要課題への対応に遅れ。



事業持株会社制での期待する効果

1. リソースの最適配置

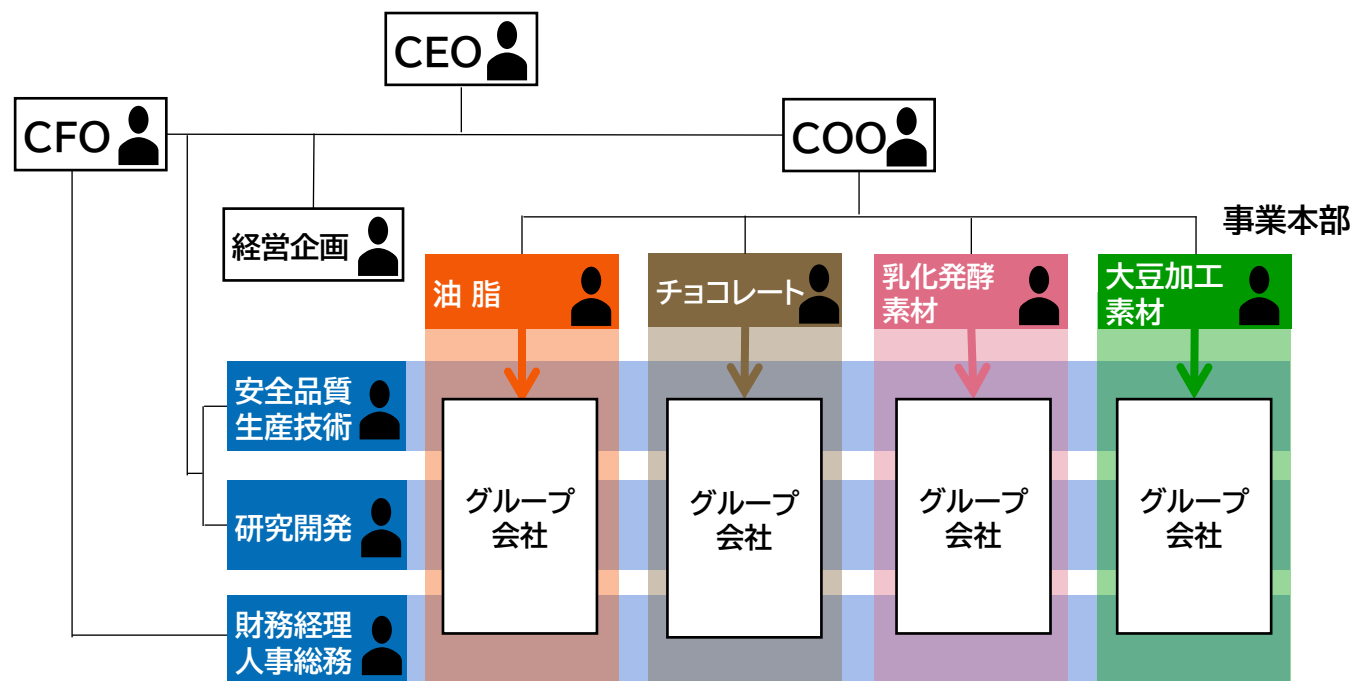
各事業本部に、人事、財務の専任担当者を配置。事業本部長の裁量によりグループ各社の状況に応じた柔軟かつ最適なリソース配分が可能。

2. 資本効率の向上

FUJI ROICを事業本部長のKPIとし、運転資本の最適化や固定資産の棚卸、製品ポートフォリオの入替を事業単位で推進。

3. リスク・機会への対応

サプライチェーン・バリューチェーンにおけるリスクや機会に対して、事業軸・機能軸で情報を共有し、対応することで、迅速かつ効率的な対応を実現。



執行役員

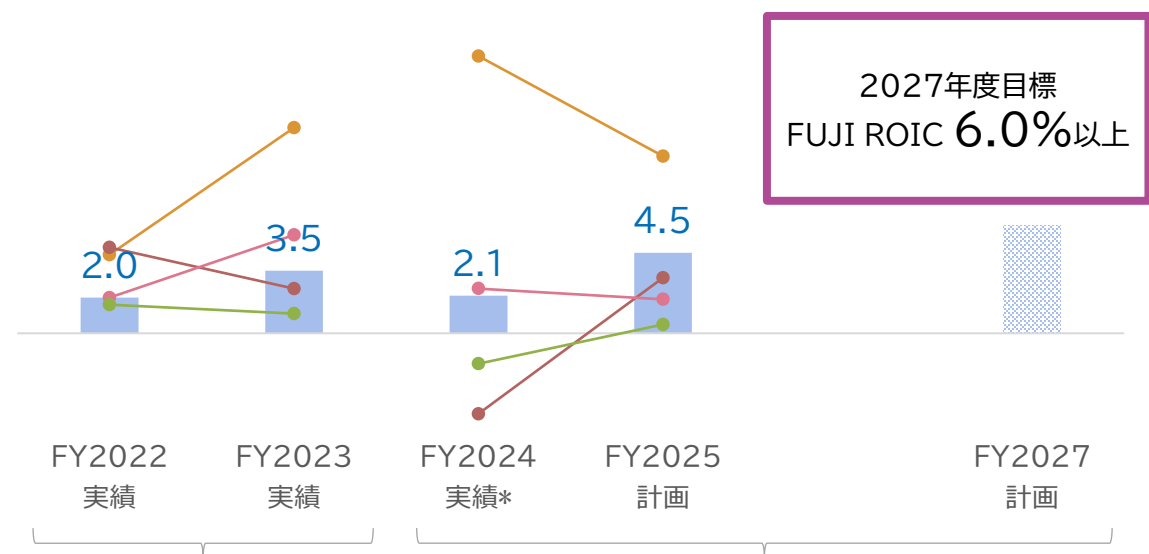
FUJI ROIC

不二製油株式会社

各事業の状況に応じた改善策の実行、グループ全社でのCCC短縮によりFUJI ROICの改善、向上を図る。

FUJI ROIC

■ 全社FUJI ROIC ■ 植物性油脂 ■ 業務用チョコレート ■ 乳化・発酵素材 ■ 大豆加工素材



2027年度目標
FUJI ROIC 6.0%以上

FUJI ROIC計算式

税引後営業利益
÷
運転資本 + 固定資産

税引後事業利益
÷
運転資本 + 固定資産 + 持分法投資

* 2025年度からのIFRS任意適用に伴い、FUJI ROICの算出式を変更。
2024年度実績は、IFRSベースの事業利益に組み替えて算出。

ROICの改善に向けた対応

成長領域

挑戦領域

CBEの競争力強化

ひまわり油などの
付加価値油脂の拡販

コンパウンドチョコ
レートの販売数量増

カカオ不使用チョコ
レートなど課題解決
型製品の拡販

ガバナンス ブラマーの利益向上、原料在庫適正化

日本での生産の効率化、
収益力の拡大

中国でのクリームの拡販

日本での収益性の
改善

日本での課題解決型製
品の拡販
海外での機能剤の拡販

グループ全社でのCCCの短縮
2024年度末123日→2027年度末目標95日

事業

植物性
油脂

業務用
チョコレート

乳化・
発酵素材

大豆
加工素材

全社

投資管理／財務安定性の確保

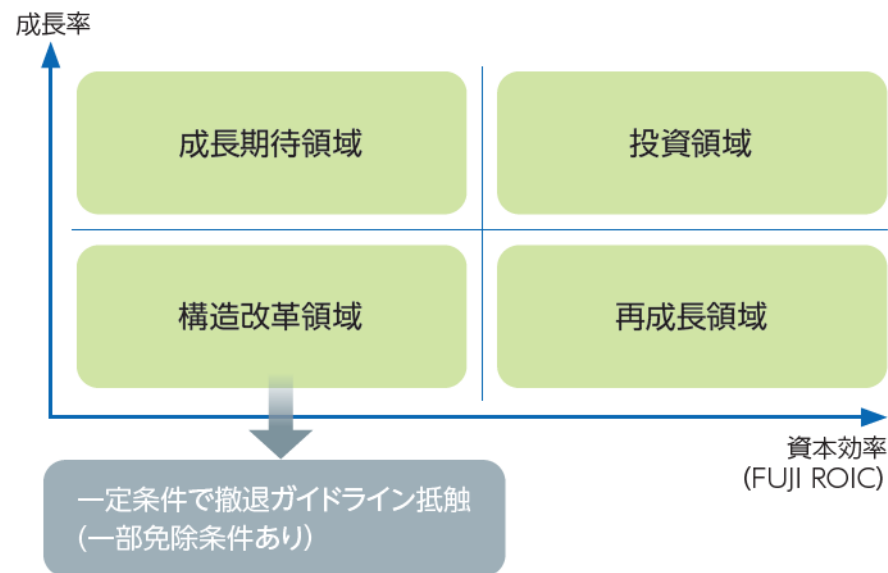
不二製油株式会社

資本コストを基準とした投資管理、運転資本の圧縮による、資本効率の向上と財務基盤の強化

投資管理

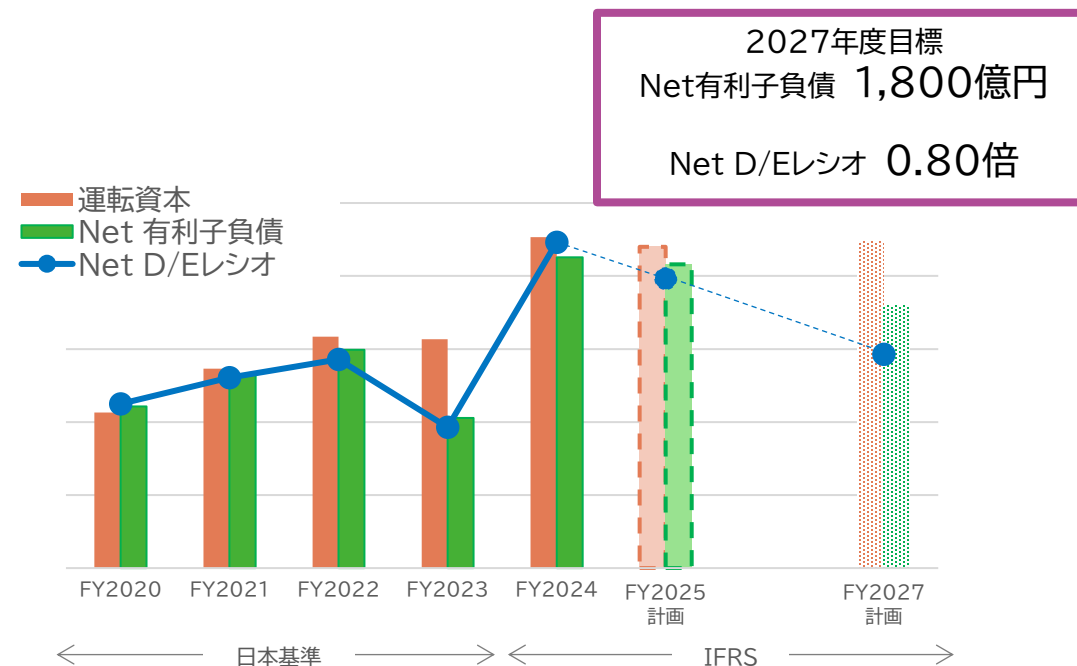
2025年度に投資管理レビュー制度を再編。事業の環境変化に対応し、資本コストを基準とした投資・撤退判断により、投資効果の最大化を図る。

事業投資レビューでのポートフォリオ評価(イメージ)



財務安定性の確保

2024年初からのカカオ価格の高騰による運転資本増加に伴い、Net 有利子負債が増加。ブラマーでのカカオ在庫の縮減に加え、運転資本の効率化、Net有利子負債の削減を進めることで、FUJI ROICの向上とNet D/Eレシオの適正化を目指す。



キャッシュアロケーション

収益力の強化による安定的なキャッシュ創出を実現し、成長投資と有利子負債の削減の両立を図る。

キャッシュイン	キャッシュアウト	詳細
営業CF 3年間累計 1,300億円	投資CF 3年間累計 800億円	• 植物性油脂事業のサプライチェーン強化のための投資、 業務用チョコレート事業の生産能力の拡充など
手元資金の活用	有利子負債削減 800億円 (2024年度末比)	• 金利上昇リスク対応、財務体質の強化として、有利子負債 を削減 • ネットD/Eレシオの適正化 1.25倍(2024年度末)→0.8倍(2027年度末目標)
	株主還元 配当性向30~40%	

研究開発／安全品質・生産技術／人材

不二製油株式会社

研究開発



ガバナンス

- ✓ 製品・技術の迅速なグループ展開体制の構築
- ✓ グローバル知財戦略の策定と実行

成長領域

- ✓ 自社製品の応用によるソリューション提案をグローバルで加速
- ✓ 主力製品群の競争力強化につながる、基盤技術の構築

挑戦領域

- ✓ 事業戦略と連動した、挑戦領域製品群の拡大と利益貢献
- ✓ 次世代事業につながる技術と市場の創出

安全品質 生産技術



ガバナンス

- ✓ 労災・食品安全クレームの低減

成長領域

- ✓ 工場生産性指標を活用したグループ各社での改善活動の活性化

挑戦領域

- ✓ スマートファクトリー化に向けた技術開発
- ✓ 挑戦領域における品質保証体制の整備

人材



ガバナンス

成長領域

挑戦領域

- ✓ グループ全社のHATARAKIGAI* 向上による一体化
- ✓ 経営人材の育成と多様性の確保
- ✓ 事業戦略と連動した人材育成・最適人材配置

* 働きがい。従業員エンゲージメントにおいてグループ共通の社内用語として使用

環境ビジョン／サステナブル調達

不二製油株式会社

2030年および2050年目標を掲げ、長期的な取り組みを推進。

環境ビジョン 2030/2050

環境に関する中長期目標を上方修正し、「不二製油グループ環境ビジョン2030/2050」へ改定。

2050年度目標

GHG排出量削減目標(スコープ1、2、3) **ネットゼロ**

2030年度目標

GHG排出量* ¹	スコープ1+2	42%削減
	スコープ3 (カテゴリー1* ²)	25%削減
	FLAG* ³	30.3%削減
水使用量* ¹	原単位 20%削減	
廃棄物量* ⁴	原単位 10%削減	
資源リサイクル(日本国内グループ会社)	再資源化率 99.8%以上維持	

*¹ 基準年:2020年度 *² 購入した製品・サービスによる間接排出

*³ Forest, Land and Agricultureの略で、土地利用に関連するセクターのこと。FLAG排出量は、土地利用の変化、土地管理、炭素除去を合わせた温室効果ガス排出量

*⁴ 基準年:2016年度

サステナブル調達コミットメント

主要原料への責任ある調達方針に則り、地球環境および人権に関するコミットメントを定め、取り組みを推進。

2030年度目標

パーム油	TTP* ⁵ 100% 労働環境改善プログラム適用率 100% (全直接サプライヤー)
カカオ	植樹100万本 児童労働撤廃
大豆	コミュニティレベルまでのトレーサビリティ確保、またはRTRS* ⁶ 認証品もしくはRTRS認証に準じたその他認証品での調達率:100%
シアカーネル	地域レベルまでのトレーサビリティ比率: 75% 植樹 6,000本/年 など

*⁵ パーム農園までのトレーサビリティ

*⁶ Round Table on Responsible Soy Association(責任ある大豆に関する円卓会議)



不二製油株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。